



言語の壁を超えた異文化コミュニケーション 実践的英語力を備えた人材を育む

教員養成で知られる文教大学文学部に、来春、新しく外国語学科が開設されます。グローバル化により異文化への共感力が必要とされる中で、どのような教育を行っていくのでしょうか。学科長に就任予定のリチャード・A.ローガン教授にお話を伺いました。

2017年4月に文学部外国語学科を新設します。

日本社会の国際化が進むにつれ、異なる背景を持つ人への共感を支えとし、言語の壁を打ち破ってコミュニケーションを取れる人が求められています。文教大学文学部では、文学や語学などを通じた「多文化理解」を一つの柱としてきましたが、新設の外国語学科では、これまで培ってきた特徴を活かしながら新たな方向性を打ち出し、現代の社会的ニーズに応えられる教育を行っていきます。グローバル化によって身近な地域や社会が変わることで、自分や周りの人々がどのような影響を受けるのか、自分で考え、行動を選択できる人材の育成を目指していきます。

多文化社会となる日本を支えていく人材を育成していくのですね。具体的にはどのような教育を行うのですか。

外国語学科では、柔軟で高度な言語コミュニケーション能力を養成します。言語を介したコ



ミュニケーションに興味があり、それを基盤として社会に関わりたいと思う人にはぴったりの学科です。具体的には、CEFRでB2、英検準一級レベル以上の英語スキル修得が目標です。入学後の早い段階で英語合宿を行い、英語漬けで勉強する体験をします。1年次は約3割、2年次は約5割の授業をオールイングリッシュで行いますが、入学直後の英語力が高くない状態では内容が理解しきれないことも多く、学生はもどかしい気持ちを味わうはずですが、それが英語学習へのモチベーションを高めるのですが、逆にストレスか

らの拒否反応や諦めに繋がらないよう、最初は日本語の説明を加えるなど英語と日本語を混在させて、段階的に英語の占める割合を上げていくようにします。——着実なスキルアップが望めますね。他にも実践的な力が身につく仕掛けがあるようですね。

日本の学生は英語で発言することが苦手です。外国の学生に比べ、間違えることに対する心理的な抵抗が大きいようです。外国語学科では、そうした心理的なハードルを超えるトレーニングを日本にいながらにして行える工夫をしました。授業の目的に合わせて、10名程度の少人数クラスを設けるなど、学生がコミュニケーションを取らざるを得ない環境を作ります。その上で、「寛容なコミュニケーション空間」を教員がサポートして形成することで、学生の積極性を引き出す指導を行います。さらに、本学科のカリキュラムの一番の特徴として、2年次春学期の留学を必修としていること(ベシックプログラムは学費内で可能)が挙げられます。学科の全学生が約3ヶ月間、アメリカ、カナダ、ニュージーランド、マレーシアなどの大学付属の語学学校で、習熟度別のクラスに分かれて学ぶことで、心理的な抵抗を完全に克服することができるよう。滞在中はホームステイや学生寮での生活を通し、どのように自分の考えや意見を伝えればいいのかを実践的に学ぶことができます。



外国語学科 学科長(予定)
リチャード・A.ローガン教授

学ぶことができるのも特徴です。どの学生も、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語から一つ選び、英語プラス1の言語を1年次より学び始めますが、2年次秋学期からは、よりハイレベルな英語を身につけることを目指す「英語キャリアコース」と、プラス1の言語のコミュニケーション能力をさらに高めていく「グローバルスタディーズコース」に分かれて学習します。言語スキルを身につけると同時に、言語の背景にある地域文化について考えるコースです。

コース分け後は、学生の将来を見据えた取り組みが用意されています。

3年次以降には、長期協定校留学や海外インターシップなど、7つのプロジェクトのうち最低1つへの参加が求められます。海外や実社会に一步踏み出す経験を与え続けることで、留学で培った力を日本に戻っても

落とすことなく、さらに伸ばしていくことにつながります。学生は在学中、日常とは違う負荷のかかる環境で異文化に適應する経験を数多く積み重ねます。結果として、レジリエンスという言葉が表すような、困難を跳ね返す力が育まれます。そうした力は卒業後のキャリアにも活かすことができるでしょう。

卒業後の進路はどのような分野を想定していますか。

高い言語コミュニケーション能力を活かして、観光業、商社など海外と接する機会の多い一般企業や、通訳として働くことなどが考えられます。また、公務員も選択肢の一つです。地域活性化に熱心な自治体はグローバルな展開を見据えており、異文化の摩擦にきめ細やかに対処できる人材が広く必要とされています。外国語話者が地域に溶けこむことをサポートするような役割が期待されます。

また、文学部には日本語教員養成の伝統があり、外国語学科でも「日本語教員養成コース」を履修することができます。高い英語力が身につく外国語学科の卒業生は、英米文化圏で日本語教員として働くことも可能です。

1年次	2年次	3年次	4年次
4技能(話す・聞く・読む・書く)の基礎固め 全体の30%の授業を英語で実施 【体験型・実習型学習】 英語合宿(必修)	秋学期 「英語で学ぶ」ステージへ。英語で発表および議論できる能力を修得 全体の50%の授業を英語で実施 2コース制 英語キャリアコース グローバルスタディーズコース 【体験型・実習型学習】 1 Semester(3カ月)の英語圏への海外留学(必修)	英語レベル到達目標 ◆CEFR B2 ◆TOEIC® 750点 ◆英検準1級 ◆TOEFL® iBT 70点 希望の進路を意識した実践的な英語能力の養成 【体験型・実習型学習】 7つのプロジェクトのうち、最低1つに参加(必修)	

段階的に英語学習や異文化体験を重ね、多言語多文化に対応できる人材へ

Information

文教大学
越谷キャンパス◎教育学部・人間科学部・文学部
湘南キャンパス◎情報学部・国際学部・健康栄養学部
経営学部

●外国語学科特設サイトを開設
文教大学文学部外国語学科の詳細はこちらからアクセス
9月末には、無料英会話レッスン動画を公開予定!
ぜひ特設サイトをご覧ください。

